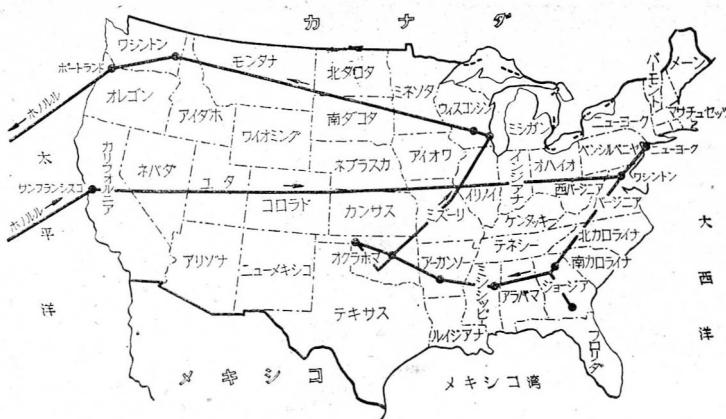
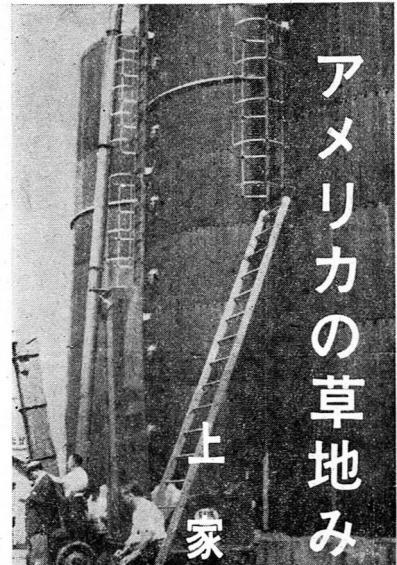


# アメリカの草地みてある記

その(一)

## 上家富成



アメリカ合衆国視察旅程図

### ワシントンへの道

ベルツビル農業研究所の鋼鉄ホーロー引のハーベスター。サイロ中側はガラス張りで魔法瓶と同じ造りの最新式のもの一五〇屯入。

迄も、自分を中心とした見たり聞いたりであるから、正式の呼称と違つたり、或いは、舌足らずの処が多く出て来ると思うが、こうした赤毛布に付いては、予め御容赦を願うと共に、若し少しでも参考になる点があれば、幸甚である。

草地管理といつても、実際には、草地を題目としたその関連事業を指し、又その見歩き先が、首都ワシントンから、南部四州（ジョージア、ミシシッピー、アーカンソー、オクラホマ）北西部二州（ワイオバーンシン、ワシントン）ハワイ州の七州に限定している点の御承知を願い度いのである。

さて、夏の夜十時半、雨の羽田を後にし十三時間半、常夏の島ホノルル空港に安着した我々は、アロハの異國に、その第一夜を不安と安心の内に過したのであつた。翌日の大陸への出発は、エンジン整備とやらで、二時間も遅れ、真夜中の十二時、その間、作家の今東光や、ミス・ユニバースの児島娘の帰国見送りで、今迄に珍しいとうゴッタ返しだったホノルルのエヤボートを後にして、約九時間の後、アメリカ大陸の西海岸、サンフランシスコへ正午近くに着いたのであつた。

サンフランシスコは、通年温度差少なく、夏涼しく冬暖い処、合服一着にて年中罷り通れる暮らしやすい話を聞いたが、成るほど、街行く人々は、夏型の中でのショートをパンツ組もあれば、秋型のコート組もある。そういう、いろいろ思い思いの服装が珍しく書くことにしたが、これは、あく

農林水産業生産性向上会議の推薦を受け、アメリカ合衆国国際協力局の計画による草地管理視察団（団長、福島県庄村畜産課長、岩手県閑畜産課長、茨城県畜産課森吉技師、群馬県酪農指導所兼家畜保健衛生所小木曾所長、長野県畜産課鈴田技師、愛知県山岳種畜育成場神谷場長、大分県畜産課岡田技師以上県関係者七名、民間筆者一名、計八名）の一員として、昭和三十四年八月十一日に出発し、十月十七日帰国までの、二ヶ月余に亘る研修の一端や、風聞など書くことにしたが、これは、あく

落しという形容の効く、急坂の街を、ケーブルカーというボールの無い有軌道の市電、恐らく相当旧時代の電車が、チンチンとうい合図で、ジャンジャン元気よく坂を上って行くのが印象的であつた。

また、われわれの行つたビクトリヤホテルの近くには、アジア以外では最大である食に立寄つた後で、大陸第一号の忘れ物があつた。その写真機を老ボーイが追い駆けて届けてくれたきさつについて、落し主は、あの食堂でチップをはずんだのは、自分一人であつたろう、と、われわれは妙に感心したものであつた。

短い半日には、有名な金門橋も見物したが、何とも雄大な釣橋で、ここから見える監獄島の風景と共に、この坂道の人口二三〇万の市は忘れられないものになつた。

そして夜九時、愈々西より東へ、大陸横断の時間が迫つた時、命の次に大切な、パスポートを紛失したという一大事が起き

然し、これは、実は左手にパスポートを確り握り、右手で懸命に探していただけであつて、一、二分で解決した珍妙な事件であった。一昨日ホノルル空港へ着いた時、移民官の調査前の受付で、パスポートを出し放して行つたため、係官が届けてくれた

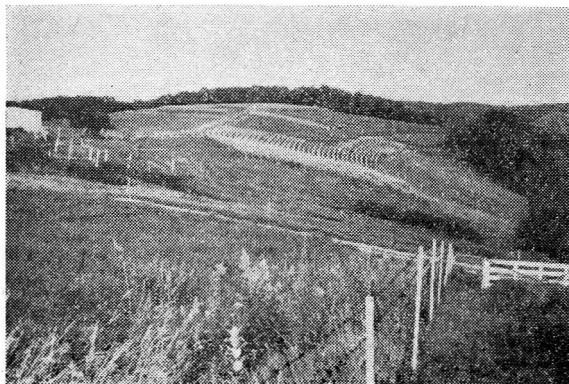
重大な忘失実績から見れば、甚だ軽妙なパ  
スポート事件であつた。

斯くしてわれわれは、其の後も度重なる  
忘れ物を繰りながら、然し殆ど大過なく予  
定の日程を進行したのであつた。

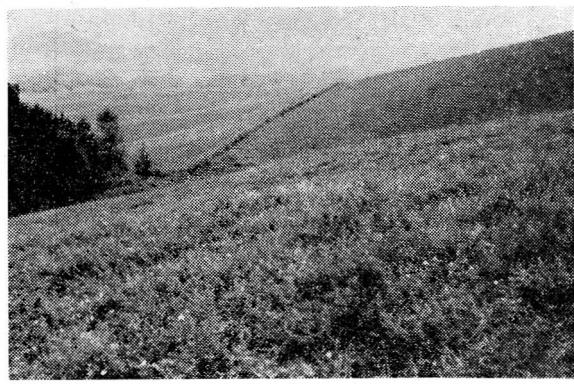
サンフランシスコを出発し、東へ東へと  
朝、われわれは待望のワシントン首都に安  
着することが出来た。

然し、宿舎カイロホテルに着いて一時間  
後には、農務省の呼出しを受けて出頭しな  
ければならない破目になつたのである。ヤ  
レヤレどころではない。顔も洗わず、朝食  
も食べずだ。いくら時間とか能率とかいつ  
ても三日がかりで漸く辿り着いたといふ  
大袈裟だが、これでは、余りにも思いやり  
が無過ぎるぞ、と、さつき初対面の生  
地、佐藤両通訳に当り散らしたりしたもの  
の、今日は金曜日、そして、土曜と日曜日  
が休日だと解れば、何をかいわんやである。  
農務省に於ては、計画官ギャザリー氏か  
ら二ヶ月の行程についての説明、また国際  
協力局では、ブレスラー氏から旅費とか報  
告書等に付いての詳細な説明を受けて、愈  
々八月十七日、月曜日から二ヶ月の研修と  
旅行が初められることになった。

ワシントンの八月中旬の暑さは三五度位  
で外は眼もくらみ汗は滲の如く、といえば  
誇張になるが、兎に角物凄い酷暑であり、  
朝方になつて漸く蘇生した思いの毎日であ  
る。カイロホテルは一階建で黒人の多い  
この附近では、確かに堂々とした建物であ  
るが、われわれ一行の室は、ツインベッド



傾斜地には穀類と牧草を交互にしかも等高線栽培（コン  
チュア）をして土壤の流亡を防止している



ウイスコンシン北部の中農の牧草地、草種はアルファル  
ファ、スマーズブルームグラス・ラデノークロバーの混播

と呼ぶ二人一室で、冷房設備も無い、そ  
してドアの鍵も完全でない、ひどいも  
のである。一泊二・五〇ドルといえれば本質  
宿だ。この宿質は全行程最低のものであ  
つたが、暑くて眠られないホテルは、安  
いのが目的か泊るのが目的か、全く無精  
に腹立たしい、そして疲労の毎日でもあ  
つた。

### アメリカ農業のあらまし

二〇カ国、六〇余人と共に聴講した、  
三日間に亘る、農務省の講演は、アメリ  
カ農業全般に関するものであつた。アメリ  
リカの草地が目的だといつても、これは  
基礎的な知識として先入して置く必要が  
あると思い、その概要を公報と照合しな  
がら、ここに書くことにする。

アメリカ合衆国は、総面積一九億エー  
カーで、ここに住む総人口は約一億六千  
二百万人、また農地総面積は、一一億六  
千万エーカーで、総面積の約六割に当り、  
農業人口は約二千二百万人口で、総人口の  
一・四割に当るというから日本の農業経  
営とは根本的に相違があり、従つて、ア  
メリカを見たからといつても、簡単に比  
較することは出来ないし眞似だけでも、  
充分研究を要することになると思われ  
る。

更に、六割に当る農地（農場）の内訳  
は、作物栽培地二一・五%，農場用草地  
二一・八%，草地として利用の林地七・一  
%，草地としてのみ利用の農地三・六%，  
附帯林地四・五%，農場の敷地道路一・四

%、以上の通りだから、草地利用が三二・  
五%となり、農地の半分以上が草地である  
ところに、草地農業という言葉が有る所以  
があるようだ。

次に、農業經營の面では、一戸平均家族  
四名で、五四〇戸であり、一戸当たりの平  
均規模は、二一六エーカー（八六町歩）で  
この中の草地は約一一六エーカー（五六町  
歩）を占めている。然しこの数字はあく迄  
も割算から出た平均指數であつて、よく日  
本でいう一戸平均五反歩といった言葉に対  
する意味である。

広大な土地、そして気候や住民が多種多  
様であるアメリカは、南北に一・六〇〇マ  
イル、東西に二・八〇〇マイルもあり、こ  
の国を横切る為には、一分間一マイル速度  
の汽車に乗つて二昼夜もかかるのである。  
こうした広いアメリカの中でも、乾燥した  
西部劇の西部地区では、極端に大きな農場  
があるが、南部の綿地帶や、太平洋岸の  
果実蔬菜等の灌漑地域は比較的小面積經營  
であるから、中級の農場は概ね一〇〇エー  
カー（四〇町歩）位のものであろう。

そして、全農家の四分の三は自作農であ  
るが、この中の四分の三、即ち全農家の一・  
五割は、自作兼小作であつて、これが平均  
約五〇〇エーカーという最も大きな經營規  
模である。農業經營も、商業農場といわれ  
るものが、三七〇戸で三分の二を占め、  
次が居住農場の一五戸、副業農場の五  
五戸の順であるから、アメリカ農業の大  
部分は、自作農であり、商業農場經營であ  
るといえる。

この商業農場売上げの最大規模のものは、太平洋岸の果実蔬菜の生産地、西部のコーンベルト及び南部平野の家畜または販売高は約六、〇〇〇ダ噸で、北・中部の酪農地帯では、中位に在つて一、二〇〇ダ噸程度だといわれている。

このように地帯別に、経営規模の異なる農場ではあるが、生産される玉蜀黍（約三〇億ブッシュル）、小麦（約一〇億ブッシュル）、燕麦（約一五億ブッシュル）、棉花（約一、三六〇万ポンド）、煙草（約二二億ブッシュル）、果実（約三三三億磅）、蔬菜（約三八〇億磅）、等農産物の他、食肉、鶏、七面鳥、牛乳、卵等の畜産物は世界最大の生産国である。

然し玉蜀黍、燕麦の大部分、小麦の一部は形をえて豚肉、牛肉、牛乳、卵として市場に出廻り、輸出農産物は生産の約一割程度に過ぎない特徴をもつてゐるのである。即ち、農地の半分以上の草地に飼育されている大小家畜に対し、更に膨大な穀類を給与し、乳肉、卵として市場に出荷されている訳なのである。

尚この家畜の飼養頭数及び生産物は次のような驚異的数字である。（一九五四年調）成牛及び犢 九四、六七七千頭

豚 四八、一七八

羊 三〇、九〇二

鶏 四三九、二七一

七面鳥 五、三二三

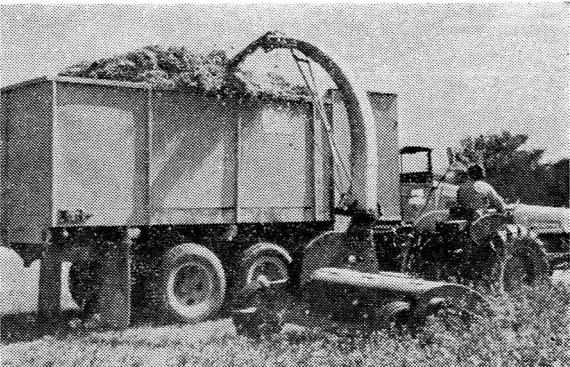
牛 肉 一二、四四四百万磅  
豚 肉 一〇、〇六三  
犢 肉 一、五五九

卵 六一、七〇四  
牛 乳 一二一、二一九  
七面鳥肉 三、二七七  
七面鳥 七〇九

次に労働関係であるが、農場經營の五分の四が家族企業で、五分の一が雇傭労働である。広大な農場が、農業労働者を当てにして經營するとしても、その人が居なければなりません。しかし、高い労働賃金では採算に合う筈がない。例えば南部の棉花栽培が、手労働であるからといって、一八〇八年に、アフリカ、リベリヤの土人ニグロを、奴隸貿易によつて、棉花労働者の充足とし、一応この企業も成功したかに見えたが、結局永年に亘る単作から土壤の荒廃を続けた上、奴隸解放後は一層労働賃金に追われて、シリ貧と穀象虫の蔓延による破壊が、徹底的に南部を叩いたのである。

棉花栽培農家は遂に、酪農とか、ピーナツ或はメロン作りに転換するとか、または棉花畠に植樹して木材資源に変えた後退者の他のは更に積極的な研究により、農場労働を解放し、三〇人力の棉摘機の機動力によって、採算が漸く見込まれるという労働問題には重大にして深刻な過去があるのである。

次に、アメリカ農村の特徴の一としては、集団や村落がなく、農家はバラバラに散在し、それぞれ独立し、自給自足を建前にし

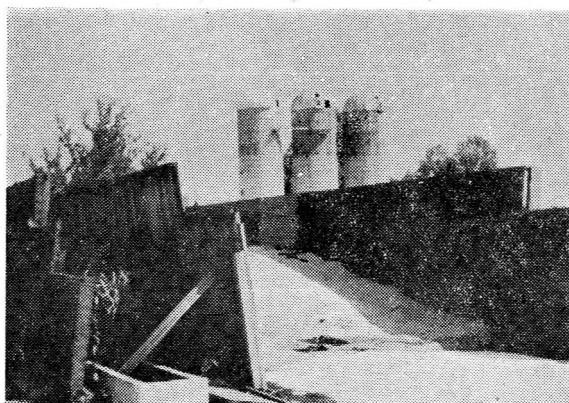


フィールドショッパーでアルファルファーを刈り、ワーゴントレイラーに積んである處、一杯になれば運搬して運動場の牛に給与する

以上の諸事情から見て、広い土地や企業も成功したかに見えたが、結局永年に亘る単作から土壤の荒廃を続けた上、奴隸解放後は一層労働賃金に追われて、シリ貧と穀象虫の蔓延による破壊が、徹底的に南部を叩いたのである。

このような農業形態は、結果的に、自主独立の精神と経営経済に徹した農民を造り出したものと思われるが、日本では手労働農業や箱庭式経営とは、全く相反したのがアメリカ農業であつて、これは仲々咀しやく切れないので多いだろうと考えさせられるのである。

この機会に今少し機械化農業の実態を調べてみると、商業農場が最も進んだ割合であつて、農作業の九割までが機械及びトラクターの操作による施設を持つてゐるか、または、借りてて作業をしているのであるが、これは単に、農業経営の問題ばかりでなく、一労働時間当たりの生産性を増加する為なのである。例えば、穀類の九割はコンバイン（収穫機）で収穫し、玉蜀黍の八割はコーンビッカー（採取機）を使用



ベルツビル農業研究所のバンカー型トレンチサイロ 120 吨入りで歩留り 80 % の好成績、遠方はハーベスター サイロ

た社会的経済的単位が普通であつて、殆ど農場の区画内に建物があり、農場労働は、家族の年齢、体力、習慣に応じ適した仕事を分担する。例えば、父親は屋外の仕事や家畜の世話、機械の手入れ、母親は殆ど屋内の仕事であり、息子は父親を手伝い、娘は母親の手伝いをするという家族企業である。

集約経営に対し、如何にして機械を使ふかという点に徹底した研究課題があつたのは当然であり、機械化に対するこの考え方は、農業以外の凡ゆる工業や交通文化にも同じことがいえるのである。

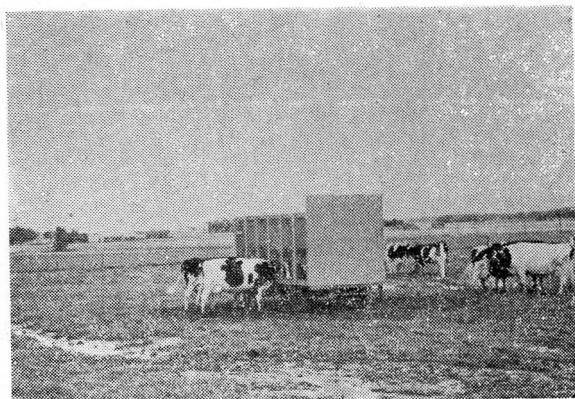
し、乾草の七割は刈束機で束ねられるといった具合である。また小農場の畜力を除いては、五分の四以上がトラクターによつて耕起や碎土を行なつてゐる。このトラクターや乗用車は全農家の三分の二以上が自家用として所有し必需品的な存在になつてゐるのである。

文化生活の面では、全農家の半分が電話を持ち、九割五分がラジオ、六割五分が電気洗濯機、七割が電気冷蔵庫を備えていると考へられる。そして農場の三分の二以上は舗装道路に面して居り、スクールバスが学校と農家とを繋いでいるし、土曜日は買物に、日曜日は一家揃つて教会に行くというのが農村風景である。

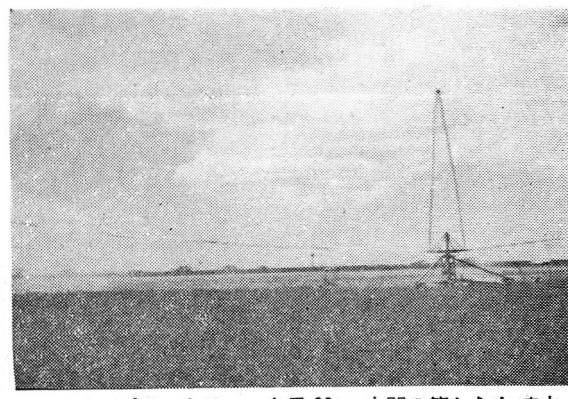
このような農業機械化や家庭電化の他に、科学を利用して、農民の労働生産力を向上させたものは、土壤保全の実施や、施肥量の増加、殺虫剤の利用、搾乳の能率化或は植物育種、家畜増殖の改良等その他多くの改善が挙げられるのである。それが直接受け日本農業と関連あるなしは別として、如何にも先進國らしくわれわれの胸を打つものがあるのは、アメリカ農業を見たからだとばかりいつては居られないものがあるからでなかろうか。

## 首都ワシントン見物

ワシントン滞在一週間の間、暇をみては見物して廻つたが、この首都ワシントンは州に属せず、初代大統領ジョージ・ワシントンにちなんで命名された連邦政府の所在地であり、アメリカ発見者クリストファー



乳牛は放牧しないで採草したものはフォレーデ・ワゴンに積み、運動場でそのまま牛に給与する



マンモスプリンクラー 全長 60 m 中間の節からも噴水しながら静かに廻転している、牧草地はアルファルファ

コロンブスにちなんで、コロンビア地区と命名されているところである。

石造建築物で世界一と称されている白大理石、高さ五五五呎のワシントン

独立記念塔、そして、リンコーンが五

二歳で死んだのでその数だけある五二

階段を上つたところに座像のある大理石のリンコーン記念堂、ポートマック

河畔のこれらの素晴らしい建物と、落着いた静かな美しさは、恐らくアメリカ

人の最も誇りとするものの一つである

うし、桜花の季節には、それが最高の美になるであろうと、立ち停つて想像

したものであつた。

アーリントン戦歿者墓地は、同じ大きさの墓石が縦横に整然と並び、奇麗

に掃除が行き届いた美しい緑の公園である。

大統領官邸のホワイトハウスは、奇麗に刈込まれた芝生の中に建つた余り

大きくなない建物であるが、噴水とその白堊の殿堂が緑の中に絵のように静ま

り返つてゐた。写真をとつてみると、二人の水兵が鉄柵から手を入れて何かと遊んでいるようなので、近寄つて見ると、リスが食物を貰つてゐる頬笑ましい風景であつた。

ワシントンは官庁の街であると共に距離に在る世界的商業都市ニューヨークの摩天楼や、夜のブロードウェイの

歌謡に比べ全く対照的な存在である。

われわれはアベニューと住所によく

書いてある言葉の意味を覚えたが、幹線道路のことであつて、都市の中心から放射状に隣接州へその州の名を附した幹線が走つて居るので大変解り易いのである。町内も何々通りと通り名なので迷うこともないし各建物は番号で右側左側が順を追つて貼つてあるので標札が無くても容易に尋ね当てられるという仕組みになつてゐるが、東京の番地は、都市計画的には全く無意味なものであると思ふ。

ワシントンで最大のデパートはウッドワードというのだと聞いて行つて見たが、四角い大きな建物の三階以上は事務所で全く期待外れも甚だしいものであつた。而かも売場の女性の殆どが申合せたように中年女性であり、極めて無愛想で事務的なカウンターに過ぎないよう見受けられた。個人商店が盛大なアメリカでは、デパートに関する限り日本とは相当な隔りがあるので。

朝夕は冷房の効いたレストランに行つたり、パドワイザーという日本風な一本(二合位)三〇セントの冷いビールの味を覚えたり、ドラッグストアで小包用の包紙が何としても通じなかつたり、八ミリフィルム一本を航空便で日本へ送つたら一・五〇ダル(五四〇円)もぶん取られて眼を丸くしたりして、ワシントンの一週間は忽ち過ぎて行くのであつた。

## ベルツビル農業研究所

ベルツビル農業研究所は、ワシントンからバスで約三〇分、八万エーカーの広大な

敷地の森の中に開けた緑の芝生に三、四階建の煉瓦か石の建築が左右に見えるところ、美麗にして厳肅な研究の殿堂である。

畜産の関係では畜舎を廻りながら次の様な説明を聞いた。

豚は從来ラードやベーゴンを目的としたが、今は植物性油脂が豊富になつたので、肉そのものを目的にした育成になり二〇〇二二〇〇磅の体重で背肉の厚さ一・三インチ程度のタイプが一番望ましい。現在はジューロックとチェスターホワイトの交配三代目に就いて研究している模様で、食餉はセルフフィーダーを使いアルファルファーとコーンのミールを餌にしている。牛はホルスタインを初め各種飼育しているが、搾乳と給餌の関係や温度の調節等の研究、七面鳥は笠を小さく肉を白くする研究等々、説明の何處までが事実なのか、参観者にいちいちいう筈もないしまた解りもしない。質問にも当たらず障らずである。サイロは最も近代的な鋼鉄製ホールド引、一五〇磅入れで、内側はガラス張りの魔法瓶式構造、またバンカーモークレンチサイロの利用等の説明に只々感じ入るばかりであつた。

種子に関する講演を要約すると次のようなことであつた。

アメリカの種子法の生立ちは、今から三九年前、一八二一年に北東部のコネティカット州で制定したのがそもそも最初であり、次いで一八九七年メイン州に、続いて一九〇八年に八州というように漸次各州に及び、一九一二年連邦の種子輸入法が制

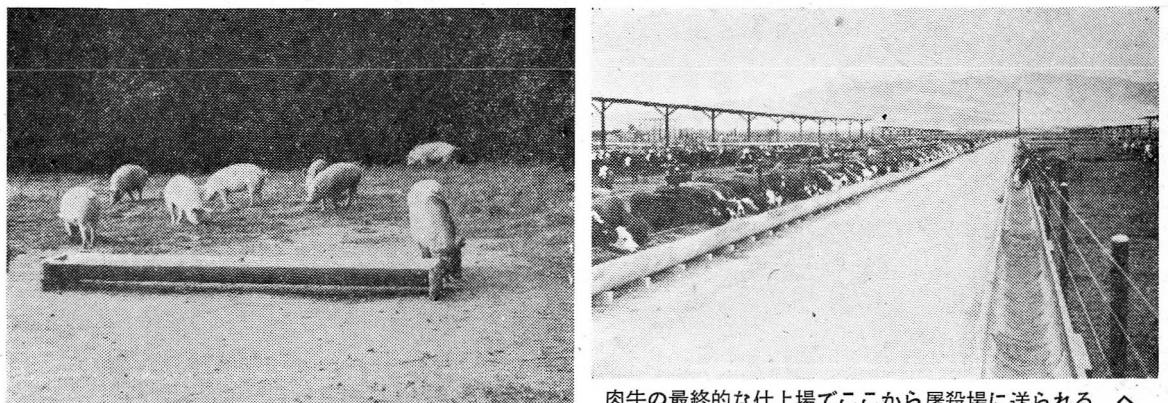
定され、その後幾度か改修され、現在の法律は一九三九年に成立したものである。

このように各州が先んじて制定した関係もあり、細部は成るべく各州の自治に任せることとするが、然し国内需給の半数は州と州間の取引があるので、この州間取引は連邦種子法を適用することとし、州内はその州法律によることになった。農務省に種子専門の国検査機関がある（ベルツビルは最高機関である）が、ここで行なう検査の九割までは、州の依頼による検査である。また國の機関は、何處で何の種子がどの位生産されるとか、来年の種子需給はどれ位であるという需給調整や種子の適地調査等も行なうところである。

次に外国から輸入する種子の検査も連邦の法律を適用するが、これは年間約三億磅位であつて、大部分はカナダからの麦である。その他一一〇種類位、大体二四カ国から輸入されている。日本からは、最近芝草とクズ種子の輸入をしている。過去に於てはヤハズソウ、クズ、蔬菜ではホーレンソウ、タマネギ、カブ、ハクサイ等の種子が輸入された。

これ等の輸入種子は七〇余の受入地から、現物が入るが、その地区は五つに区分され、そこに國の試験機関の分場があり、各税関吏から送られるサンプルにより試験を行なつてある。輸出については、国際検査協会の規則に基づいて検査が行なわれている。

以上その他、種子保証制度や種子検査に関する講演もあつたが稿を別にすることにし



肉牛の最終的な仕上場でここから屠殺場に送られる ヘヤホードの群 左側飼槽アルファルファー 右側飼槽砂糖粉、小麦、玉蜀黍、糖蜜

八月二十一日はワシントン滞在最後の日であった。そしてこの日は、前年草地改良コンサルタントとして来日した土壤保全局の主任技師ブレークリー氏が、二ヶ月に亘り、一二県の視察に基づいた、日本の草地造成に関する勧告の日であつた。

先ず冒頭に、諸君は自分の報告書を読んだか、というところから話が進められたので、ここにそのレポートと講演の要約をすることにした。

(+) 異つた気候や土壤条件に適する品種を定め、混播の草種やその割合も定めるべきである。日本では余りにも種類が多い上播種量も多いと思う。

東北寒冷地方——チモシー、オーチャードグラス、ブロームグラス、トルフエスキュー、レッドクロバー、ラデノクロバー、アルファルファー（ニュージーランドホワイトクロバー）

西南暖地——コースタルバーミューダーグラス、バヒヤグラス、ライグラス、フェスキュー、ダリスグラス、ベンゴラグラス、パールミレット、ソルガム、テオシンント、レスベデーナ、クリムソンクロバーベック

以上の種類が適しているしこれ等の牧草更新は五年位が適當である。日本

## ブレークリー氏の勧告

た。

在来のクズはそのまま利用出来るが短く切つて給与すべきである。尚根菜類は乳牛飼育に使用しない。

(二) 種子生産では、ラデノ、ソッド等のクロバーライ類やアルファルファの採種適地はないが、オーチャード、イタリアンライ等のグラス類は管理が適當ならば経済的に生産可能である。またダリスグラスその他南方型の禾本科も採種出来るし、コースタルパームリーダー、グラス等の匍匐、茎や分枝繁殖も勿論可能である。

(三) 草の刈取頻度と刈取の高さに付いて  
も配慮るべきである。例えばラデノクロ  
バーを繰返し根際から刈取ると、高温と直  
射日光の為に匍匐茎が乾燥して再生が悪く  
なるし、オーチャードグラスも同様生長点  
を切つて仕舞うから、従つて一般牧草類は  
地表七・五~一〇cm以下に刈取つたり或は  
過放牧による食わせ過ぎにならないように  
注意すべきである。然し草の若刈は大切  
だ。

(四) 草地造成に必要な金肥や厩肥が充分  
施されていない。草と雖も米や普通作物と  
同様の栄養を必要とする事を認識すべき  
である。

(四) 米麦のような作物関係には有能な学者がおり、家畜の育種管理にも堪能な人が多いたが、牧草に対しても充分な訓練と経験をもつた人は少ない、大学の研究に力を注いだり先進国へ派遣したりすべきだ。北海道大学とマサチューセッツ大学との提携は特筆されるべきである。

段を研究し等高線栽培や帯状作付或は畑地の階段造り等浸蝕防止に配慮すべきだ。等々。

貿易の自由化については、こと畜産物に関する限り、農林大臣の「乳製品につ

酪農はやつていけない。酪農家の立場からすると、乳価の変動にかかわりなく、

最後に、日本は歩くようになつてよく解るだろうが、五〇年前にアメリカが失敗した真似を繰返さない方が良い。要するに、

「貿易の自由化は行わない」といふ答弁によつて棚上げの形となつてゐる。これと関連し一刻も早く酪農の基盤をし

乳牛の飼養にはきまつた経費かかる。乳価の変動に合わせて飼養費を調査することは容易でない。

見た事は忘れ、原理を知つてこれを応用すべきだ。（猿まねするな）と手厳しい御説教を有難く拝聴した次第であつた。

つかりしたものにするため、「牛乳法」の  
ような法律を作れという動きが、最近農  
業団体の一部に起きている。「牛乳法」と  
いつても、まだ漠然としたもので、どん  
な目的で、どんな内容にすべきかは、い  
ろんな思惑があつてきまつていない。  
しかし現在、年中行事の様になつて

ところが一方、乳業会社の立場からすると市場の変動があれば、勢い製品価格を上げ下げしなければならず、好況であれば高価値も維持できるが、一たん不況になると皺寄せは価値にかかってくる。つまり問題の焦点は「牛乳支持価格の安定帶」をどの位の幅にするかということになる

らであつた。

る乳価交渉を整理して、支持価格制をと

ପାତ୍ରକଣ୍ଠ

乳価支持価格制度と牛乳法

つていくべきだという考え方が支配的である。酪農審議会で、ある乳業会社の代

表も、乳価制度の確立を強調しているし、畜産局長も、近く酪農審議会に乳価制度について諮問したいと答えている。その参考として、西ドイツの「牛乳法」とともいわれている「牛乳、乳製品、脂肪税」

「農業法」の検討や、イギリスの「農業法」の検討も進行中である。

牛乳支持価格制度を定め、乳業会社も生産酪農家も一定の法式で乳価を決定し

ていくことを強く望んでいる。今日のように乳価の変動が烈しい時に、安心して

(雪印重苗取締役・東京支店長)